

平成19年10月31日  
農 林 水 産 省

平成19年度外食事業者等に対する米の仕入動向等アンケート結果  
について

平成19年6月に実施した外食事業者、中食製造業者及び炊飯事業者の米の仕入動向や需要動向等を把握した、「外食事業者等に対する米の仕入動向等アンケート結果」について公表します。

**【問い合わせ先】**

農林水産省総合食料局食糧部計画課流通調査班

電話（代表）： 03-3502-8111

（内線）： 4206

（直通）： 03-3502-7831

担 当 者 ： 滝沢 ・ 國方

外食事業者等に対する米の仕入動向等  
アンケート結果

平成19年10月

農林水産省総合食料局食糧部計画課

## I 調査の概要

### 1 調査目的

この調査は、外食事業者、中食製造業者及び炊飯事業者（以下「外食事業者等」という。）の米の仕入動向や需要動向等を把握し、食糧行政の貴重な基礎資料とするため実施したものである。

### 2 調査対象者

この調査は、

- (1) 米の年間購入量が120精米トン以上の業者
  - (2) 米飯類の販売量が120精米トン以上の業者及び120精米トンには満たないものの各都道府県において米の使用量が多いと思われる業者
  - (3) 炊飯事業を営んでいる業者で、年間炊飯量が約500トン以上の業者
- 計566業者を対象とした。

### 3 調査実施時期

平成19年6月

### 4 調査方法

外食事業者等に対する郵送アンケート調査

### 5 回収結果

- (1) 調査対象者数 566業者
- (2) 回答業者数 295業者
- (3) 回収率 52.1%

(参考)

		事業形態	回答業者数	構成比
外食事業者	1	一般飲食店	56	19.0%
	2	すし店	6	2.0%
	3	宿泊施設	6	2.0%
	4	学校給食	5	1.7%
	5	事業所給食	59	20.0%
	6	病院・保育所給食	8	2.7%
		小計	140	47.5%
中食製造業者	7	弁当・仕出し類製造業	89	30.2%
	8	加工米飯類の製造	15	5.1%
		小計	104	35.3%
炊飯事業者	9	炊飯事業(年間炊飯量500トン未満)	12	4.1%
	10	炊飯事業(年間炊飯量500トン以上)	33	11.2%
		小計	45	15.3%
	11	その他	6	2.0%
		総計	295	100.0%

6 結果を読む際の注意事項

- (1) 回答業者数に対する回答件数の割合で整理した（回答の集計結果を比率で表しているものについては、小数点以下第2位を四捨五入した。）。
- (2) 文面中、前回調査及び前々回調査と比較している項目があるが、「前回」とは平成18年5月、「前々回」とは平成17年5月に実施した調査の結果である。  
 なお、前回調査までは職員によるアンケート調査である（前回の回収率91.7%）。

7 海外での事業展開

参考として、外食事業者等に対して、海外での事業展開等について、伺った結果は次のとおりである。

(1) 海外での事業展開への関心

事業形態	既に海外で事業展開を行っている	海外での事業展開に関心がある	海外での事業展開に関心がない	わからない	無回答	合計
1 一般飲食店	6	11	28	10	1	56
2 すし店	1	2	1	2		6
3 宿泊施設			3	3		6
4 学校給食		1	3	1		5
5 事業所給食	1	3	39	15	1	59
6 病院・保育所給食		1	5	2		8
7 弁当・仕出し類製造業	2	9	50	26	2	89
8 加工米飯類の製造		2	7	6		15
9 炊飯事業(年間炊飯量500トン未満)		1	9	2		12
10 炊飯事業(年間炊飯量500トン以上)		5	25	3		33
11 その他	1	1	1	2	1	6
総計	11	36	171	72	5	295

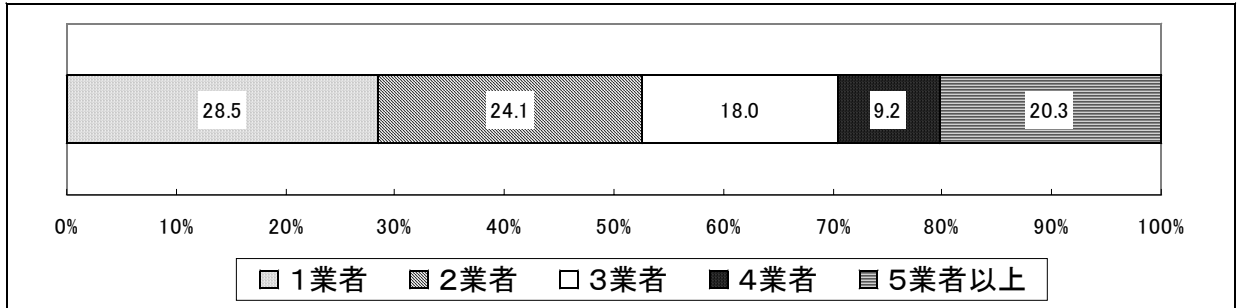
(2) 海外に資本関係のある会社又は店舗等の進出先

事業形態	①	②									③	①+②+③	
	単数回答	複数回答									選択肢2回答	無回答	回答業者数
	持っていない	北米	中南米	欧州	中東	アフリカ	東アジア	東南アジア	南アジア	オーストラリア、ニュージーランド			
1 一般飲食店	41	2		1	1		7	5		1	12	3	56
2 すし店	5						1				1		6
3 宿泊施設	6												6
4 学校給食	5												5
5 事業所給食	55		1				1				2	2	59
6 病院・保育所給食	8												8
7 弁当・仕出し類製造業	79	1				1	1	1			3	7	89
8 加工米飯類の製造	14											1	15
9 炊飯事業(年間炊飯量500トン未満)	11											1	12
10 炊飯事業(年間炊飯量500トン以上)	33												33
11 その他	4						1				1	1	6
総計	261	3	1	1	1	1	11	6		1	19	15	295

## II 調査結果

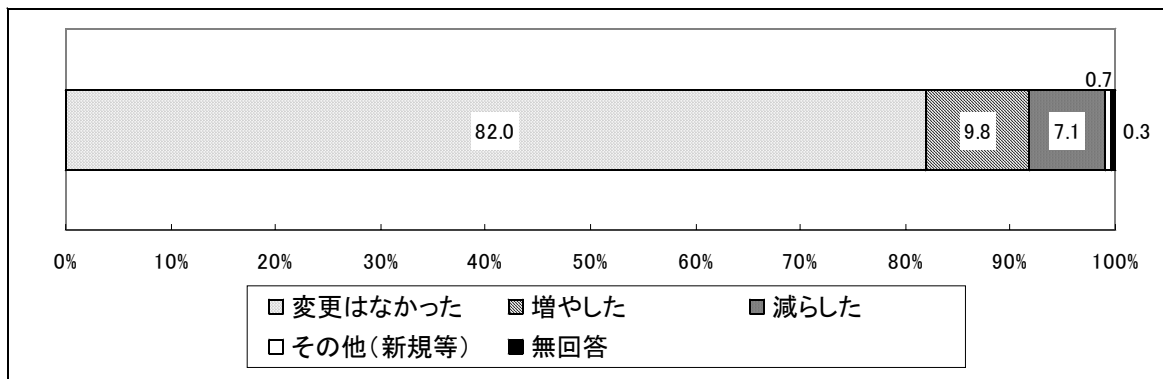
### 1 米の仕入先業者数（単数回答）

平成18年度における米の仕入先業者数については、回答業者の過半（52.6%）が1、2業者と取引を行っている一方で、5業者以上の多数の業者と取引を行っている回答業者も20.3%を占めています。

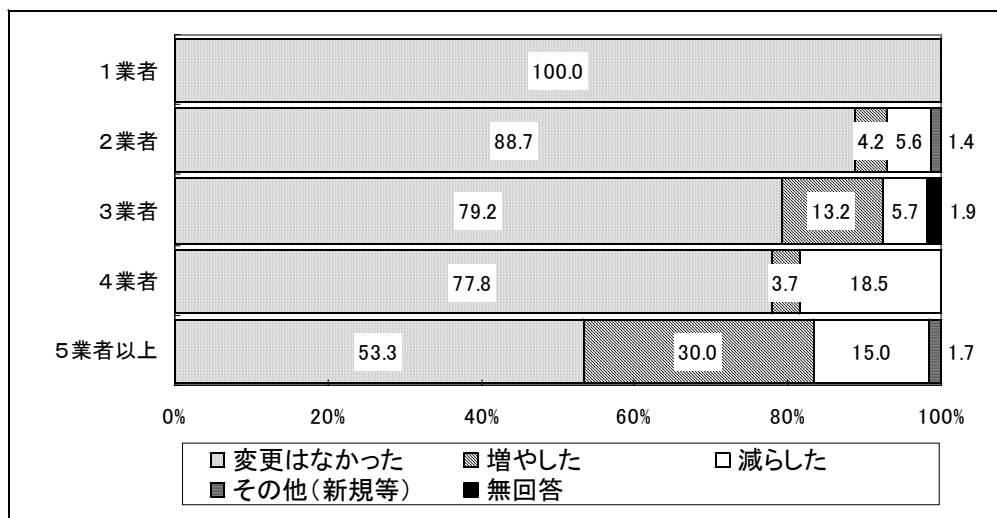


### 2 米の仕入先業者数の変化（単数回答）

(1) 前年度（平成17年度）と比較した仕入先業者数の増減については、「変更はなかった」と答えた業者が82.0%を占めていますが、増減があった業者も16.9%となっています。



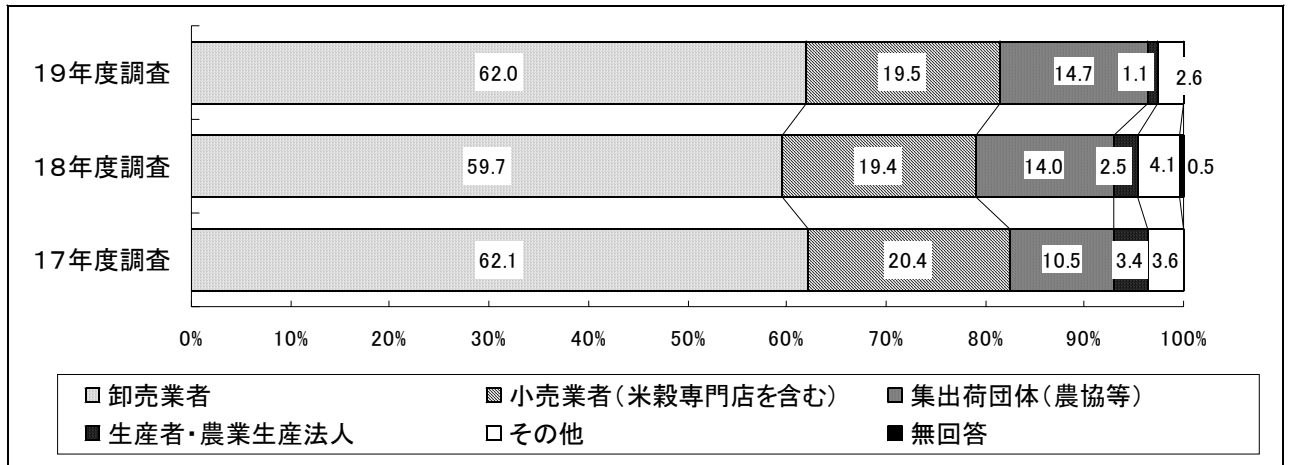
(2) 仕入先業者数の変化を1の仕入先業者数ごとに見ると、仕入先が少ないほど仕入業者の変更の割合が少なく、仕入先が多くなるほど仕入業者の変更の割合が強くなっていることがうかがえます。



### 3 主な米の仕入先（複数回答）

主な米の仕入先については、「卸売業者」と答えた業者が62.0%と最も多く、次いで「小売業者（米穀専門店を含む）」が19.5%と、前回、前々回の調査結果と同様の傾向となっています。

「集出荷団体（農協等）」は14.7%とわずかながら増加、また「生産者・農業生産法人」はわずかながら減少となっています。

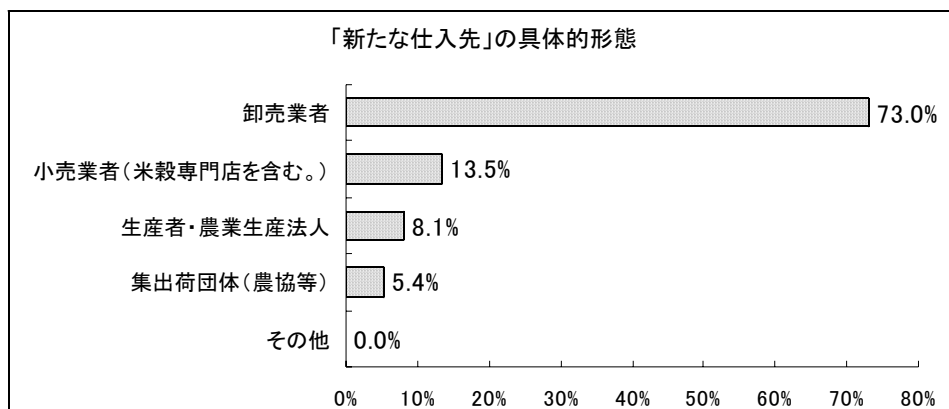


（主な仕入先が明確な回答（266業者）により集計）

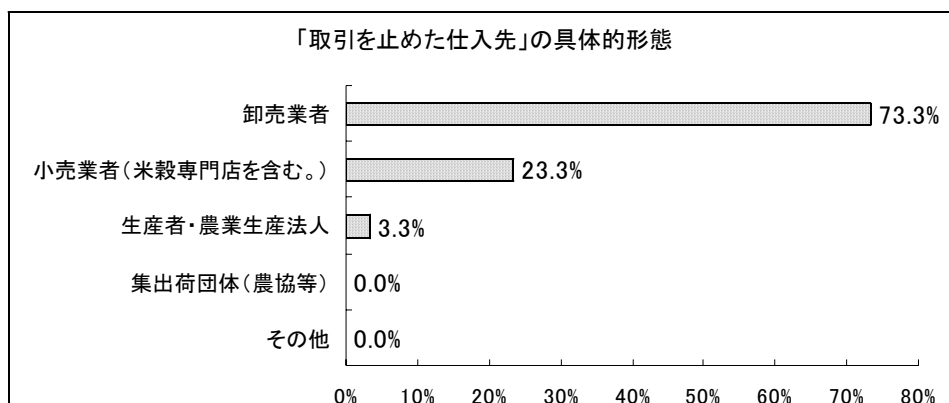
### 4 新規取引の開始、既存取引の停止（複数回答）

平成18年度に仕入先業者の変更があった業者に仕入先の具体的な形態を聞いたところ、「新たな仕入先」と「取引を止めた仕入先」のいずれも「卸売業者」が1位となっており、卸売業者間の入れ替えが行われていることがうかがわれます。

（回答数 のべ37業者）

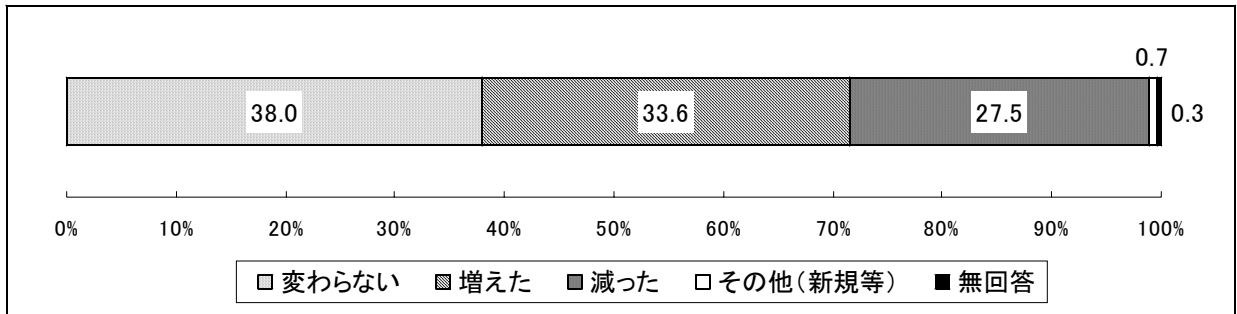


（回答数 のべ30業者）



## 5 米の年間仕入数量の変化（単数回答）

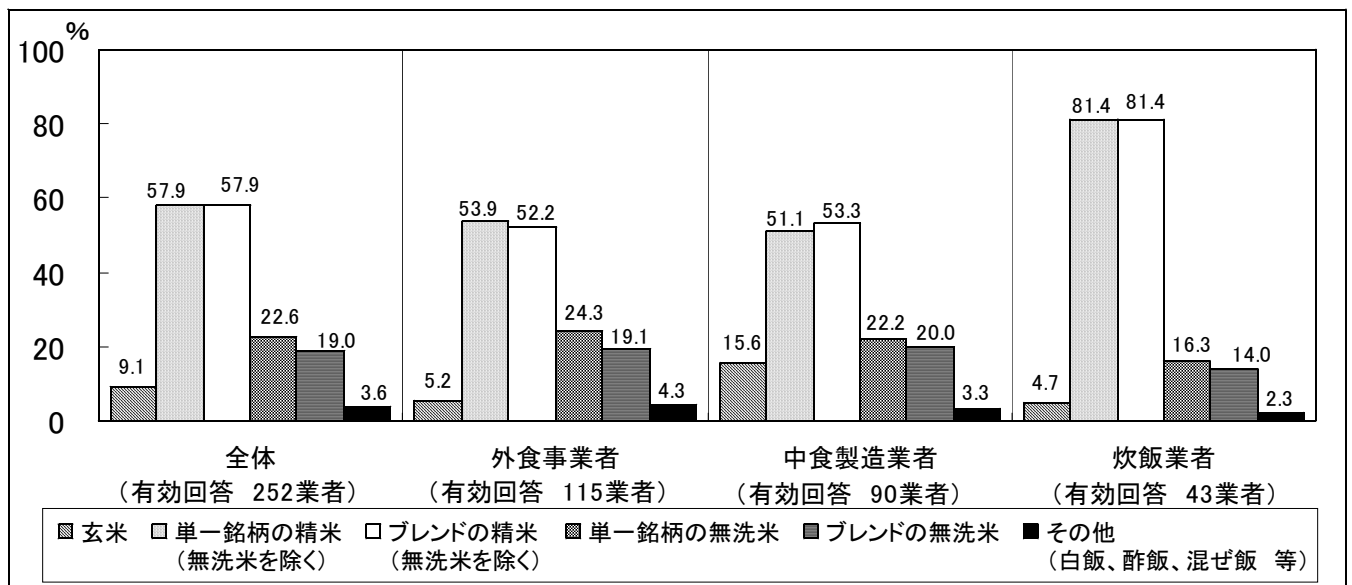
平成18年度の米の年間仕入数量は、前年度と比較すると「変わらない」という回答が最多（38.0%）でしたが、それに次いで「増えた」という回答も多くなっています（33.6%）。



## 6-1 仕入れる米の種類（複数回答）

仕入れる米の種類について、各事業者とも「単一銘柄の精米」と「ブレンドの精米」の仕入が高くなっています。

また、無洗米の仕入についても、各事業者とも20%程度となっています。



注：無洗米とは精米から肌糠（はだぬか）を取り除いたものをいいます。

## 6-2 米の年間仕入数量（複数回答）

平成18年度の種類毎の年間仕入平均量については、次のとおり種類ごとの仕入量に大きな差がありますが、6-1で仕入れている業者数と合わせてみると、玄米、ブレンドの精米、白飯等の仕入を行っている業者は、比較的規模が大きいことがうかがえます。

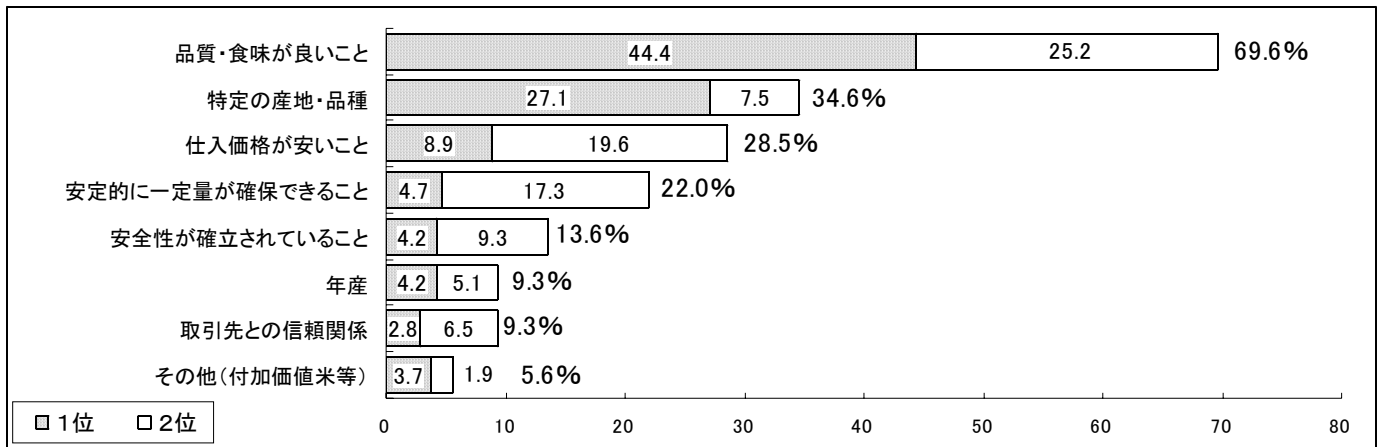
(単位:トン)

種類	玄米	単一銘柄の精米 (無洗米を除く)	ブレンドの精米 (無洗米を除く)	単一銘柄の無洗米	ブレンドの無洗米	その他 (白飯、酢飯、混ぜ飯 等)
仕入数量						
最小～最大	1 ～ 41,000	1 ～ 6,500	2 ～ 43,000	1 ～ 9,000	2 ～ 9,420	5 ～ 8,600
平均数量	2,177	456	1,399	446	849	2,113

## 7 米を仕入れる際の判断基準（単一銘柄・ブレンド別に上位2つまで回答）

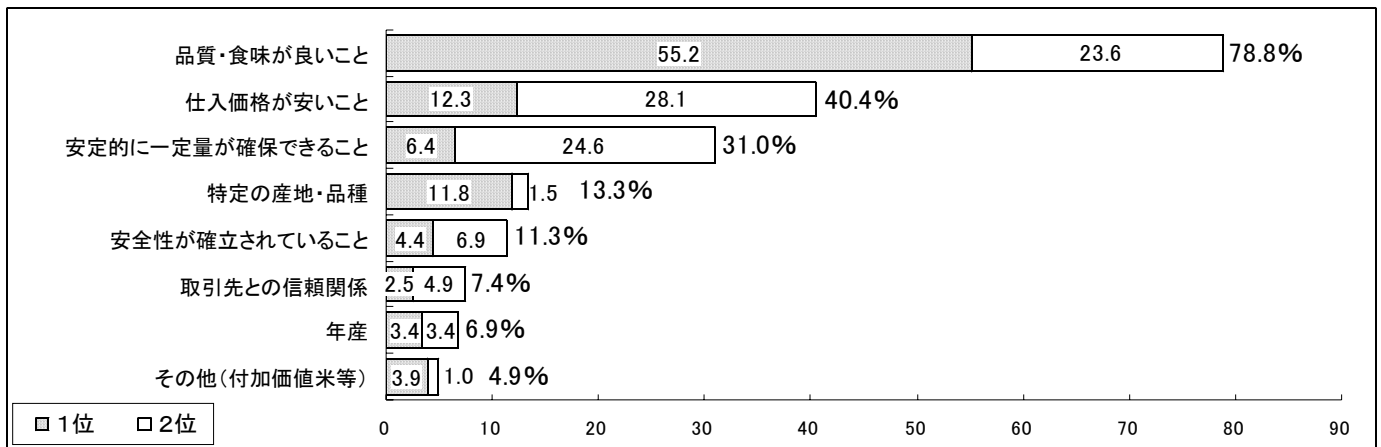
(1) 単一銘柄米を仕入れる場合の判断基準としては、「品質・食味がいいこと」(69.6%)、次いで「特定の産地・品種」(34.6%)、「仕入価格が安いこと」(28.5%)という順になっています。

(有効回答 214業者)



(2) ブレンド米を仕入れる場合の判断基準としては、「品質・食味がいいこと」(78.8%)、次いで「仕入価格が安いこと」(40.4%)、「安定的に一定量が確保できること」(31.0%)という順になっています。

(有効回答 203業者)



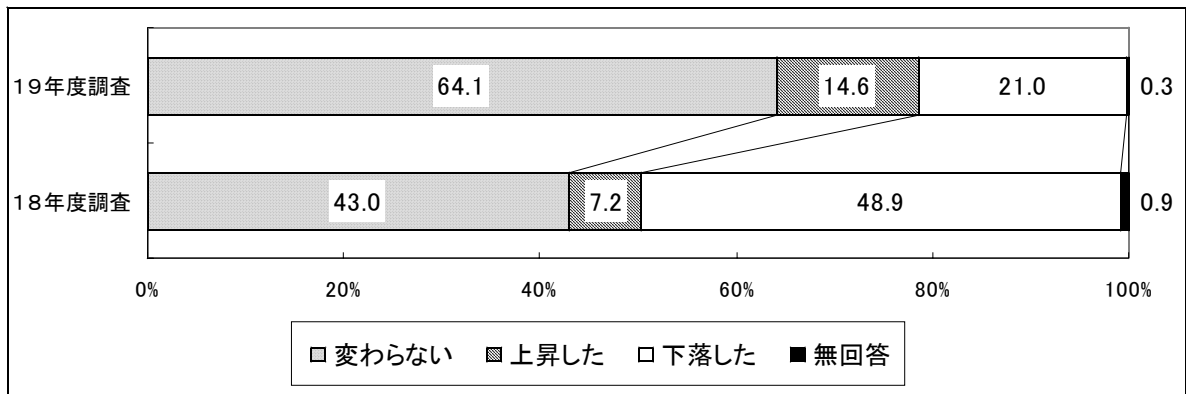
注：付加価値米とは

①有機栽培米 ②無農薬栽培米 ③減農薬栽培米 ④胚芽精米 ⑤発芽玄米 ⑥無洗米 ⑦栄養強化米などをいいます。

## 8 最近仕入れた米の価格の変化（単数回答）

米の仕入価格については、昨年（平成18年5月頃）と比べて、「変わらない」が64.1%と最も多くなっています。

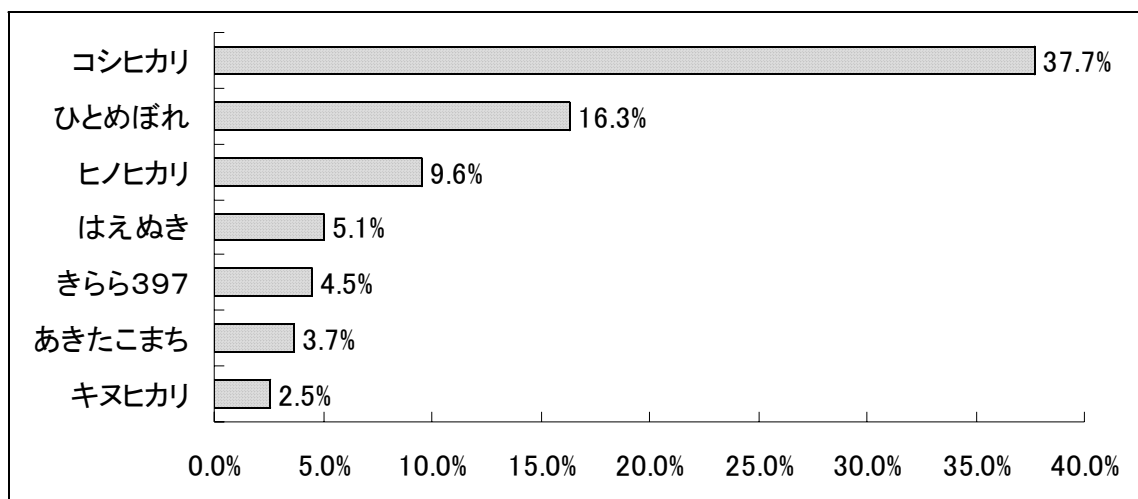
なお、「上昇した」は14.6%と昨年より増加していますが、これは仕入れた米の種類を変更する等の理由によるものと考えられます。



## 9-1 仕入れている単一銘柄米の主な内容（仕入量の多い順に1～3位まで回答）

単一銘柄米を仕入れている業者が仕入れた上位品種は、コシヒカリが37.7%となっており、ひとめぼれ16.3%、ヒノヒカリ9.6%の順となっています。

（有効回答 194業者）

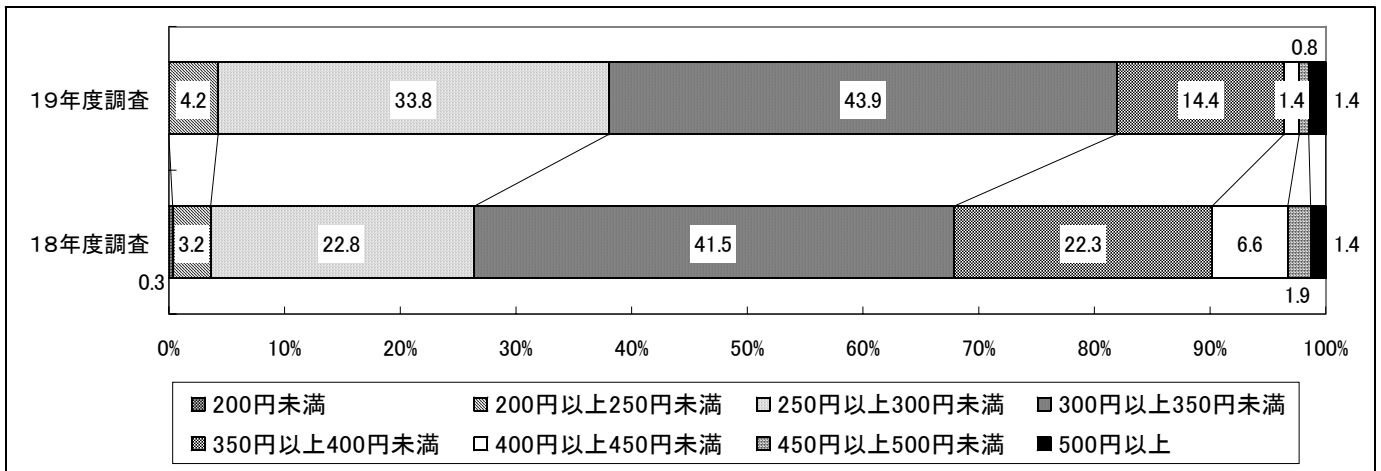


また、単一銘柄米の上位品種の主な産地は次のとおりとなっています。

コシヒカリ	新潟県 18.7%	福島県 13.4%	長野県 9.0%	茨城県 8.2%	栃木県 5.2%
ひとめぼれ	宮城県 46.6%	岩手県 19.0%	福島県 12.1%	山形県 5.2%	鳥取県 3.4%
ヒノヒカリ	大分県 14.7%	香川県 14.7%	熊本県 11.8%	福岡県 11.8%	山口県 8.8%
はえぬき	山形県 94.4%	福島県 5.6%			
きらら397	北海道 100.0%				
あきたこまち	秋田県 69.2%	長野県 15.4%	新潟県 7.7%	岩手県 7.7%	
キヌヒカリ	岡山県 22.2%	滋賀県 22.2%	徳島県 22.2%	兵庫県 11.1%	三重県 11.1%

### 9-2 単一銘柄米の価格帯

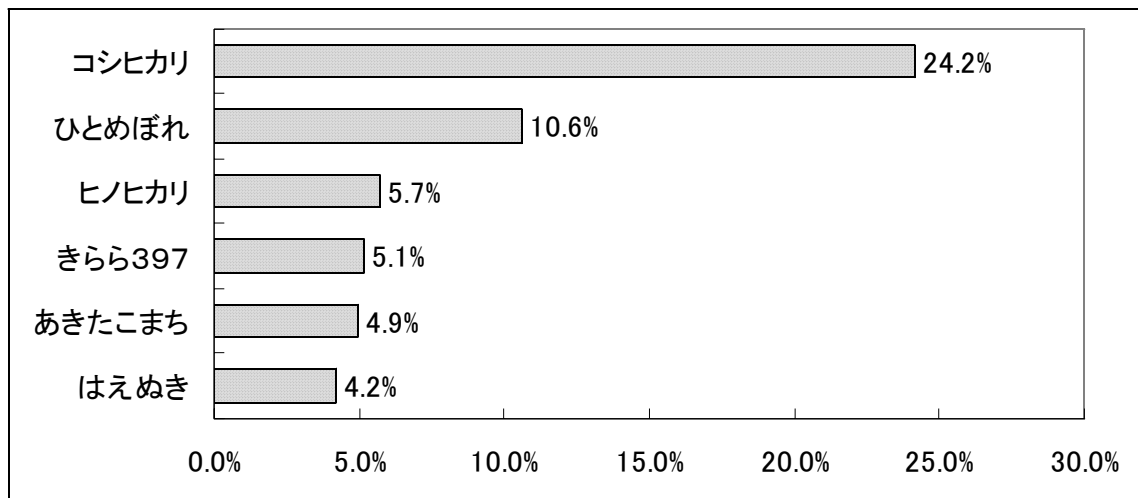
単一銘柄米を仕入れている業者の1kgあたりの仕入価格帯は、350円未満で約82%となっており、特に昨年と比較すると、「250円以上300円未満」の割合が大きく増加している一方で、350円以上の割合が減少しています。



### 9-3 仕入れているブレンド米の主な原料品種（仕入量の多い順に1～3位まで回答）

ブレンド米を仕入れている業者が仕入れた原料米の上位品種は、「コシヒカリ」が24.2%と最も多く、次いで「ひとめぼれ」10.6%、「ヒノヒカリ」5.7%となっています。

(有効回答 168業者)

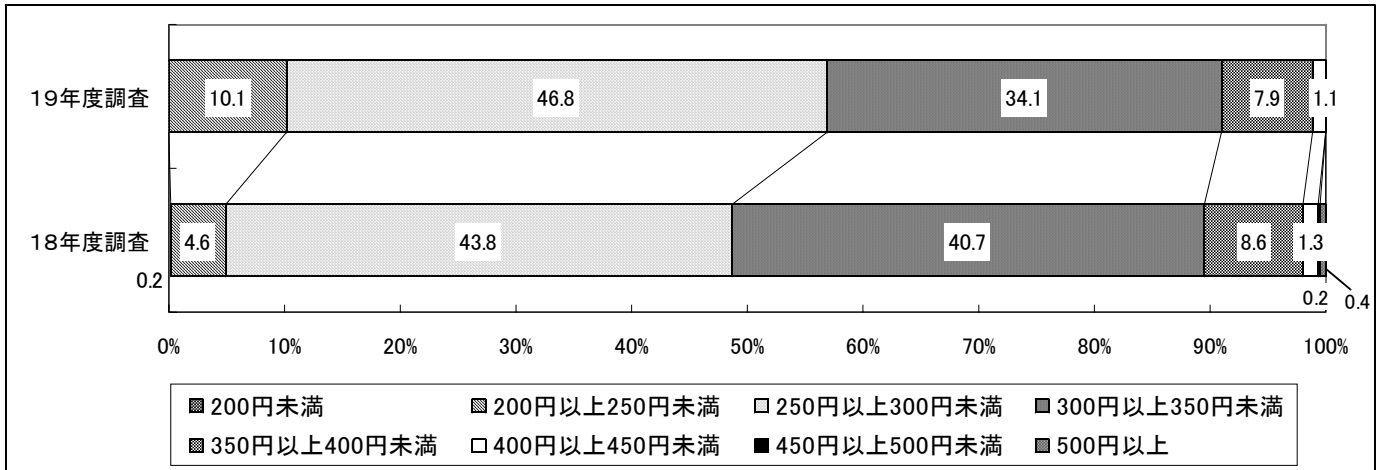


また、ブレンドに使用されている上位品種の主な産地は次のとおりとなっています。

コシヒカリ	栃木県 16.7%	福島県 14.4%	茨城県 11.4%	石川県 8.3%	長野県 7.6%
ひとめぼれ	宮城県 32.8%	福島県 17.2%	岩手県 8.6%	山口県 5.2%	青森県 5.2%
ヒノヒカリ	岡山県 16.1%	愛媛県 12.9%	大分県 9.7%	兵庫県 9.7%	福岡県 6.5%
きらら397	北海道 100.0%				
あきたこまち	長野県 37.0%	秋田県 33.3%	茨城県 7.4%	岩手県 7.4%	福島県 3.7%
はえぬき	山形県 95.7%	秋田県 4.3%			

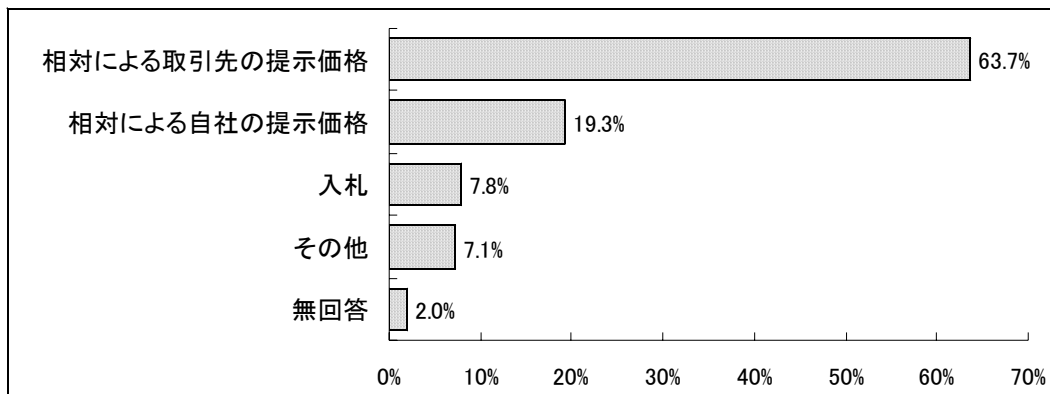
### 9-4 ブレンド米の価格帯

ブレンド米を仕入れている業者の1kg当たりの仕入価格帯は、350円未満で約91%となっており、特に昨年と比較すると、300円未満の価格帯が50%を超えています。



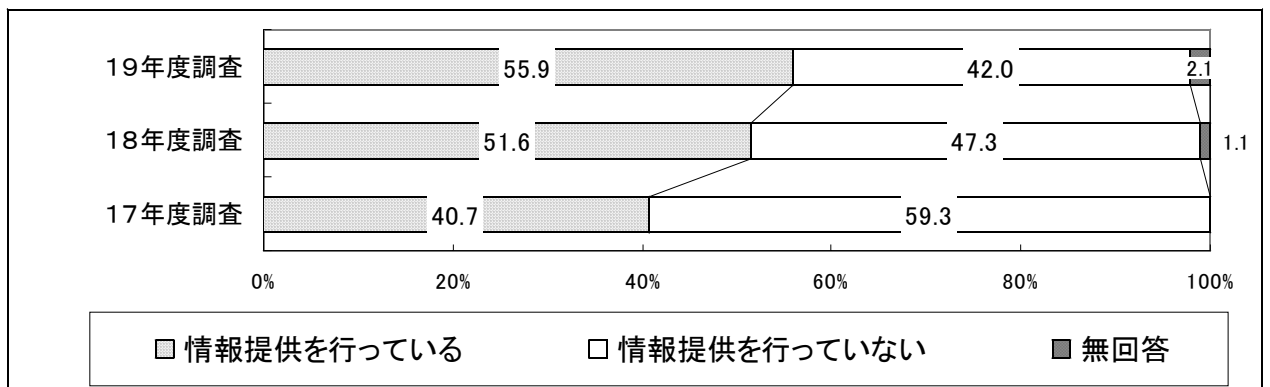
### 10 米の仕入価格の決め方（単数回答）

米の仕入価格の決め方については、取引先からの価格の提示が約64%となっている一方、自社からの価格提示が約19%、入札が約8%といった方法も見られます。

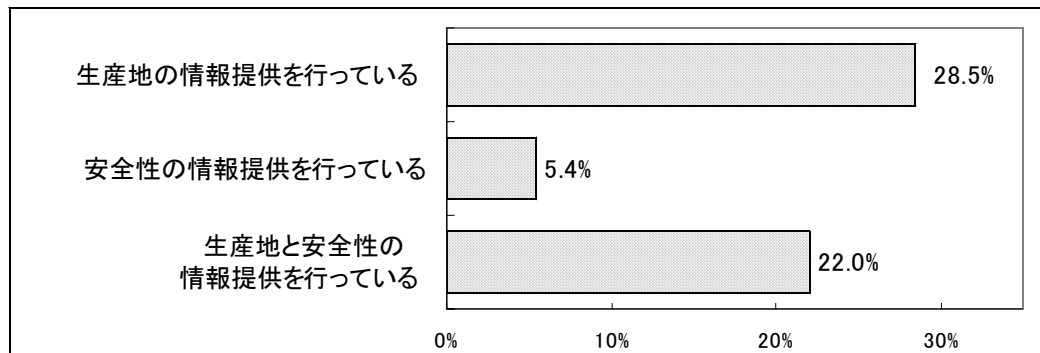


### 11 情報提供（生産地・安全性）の有無（単数回答）

「情報提供を行っている」業者が半数以上となっており、前回調査と比べ、増加しています。



情報提供の具体的な内容としては、生産地についての情報提供が最も多く、生産地と安全性の両方についての情報提供がそれに続いており、消費者の生産地・安全性に対する関心の高さと情報提供の要求に応える結果になっています。



## 12 1食あたりのごはん製品と原料精米の重さ（複数回答）

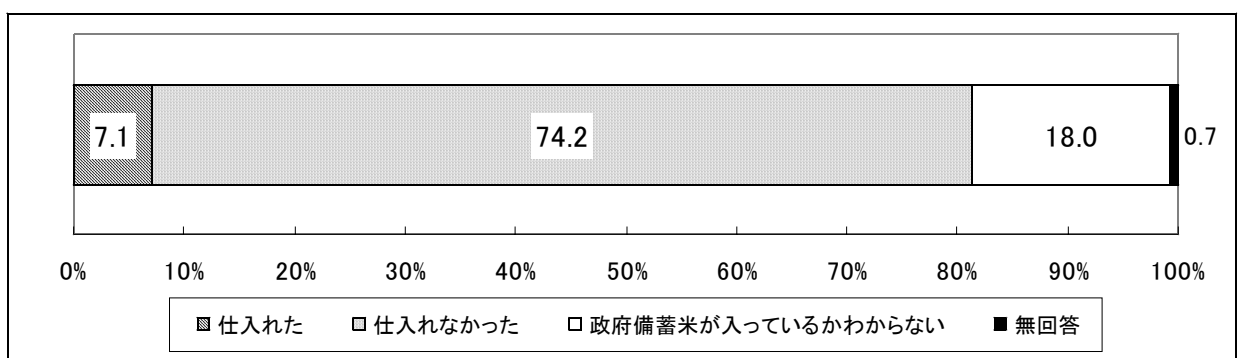
「製品の重さ」及び「原料精米の重さ」については、業者ごとに違いがあるものの、平均数量は次のとおりとなっています。

（単位：グラム）

製品名	製品の重さ	原料精米の重さ
	平均数量	平均数量
おにぎり1個	100.8	49.1
お茶碗1杯	191.2	92.0
どんぶり1杯	251.7	122.5
包装容器1個	255.2	122.1

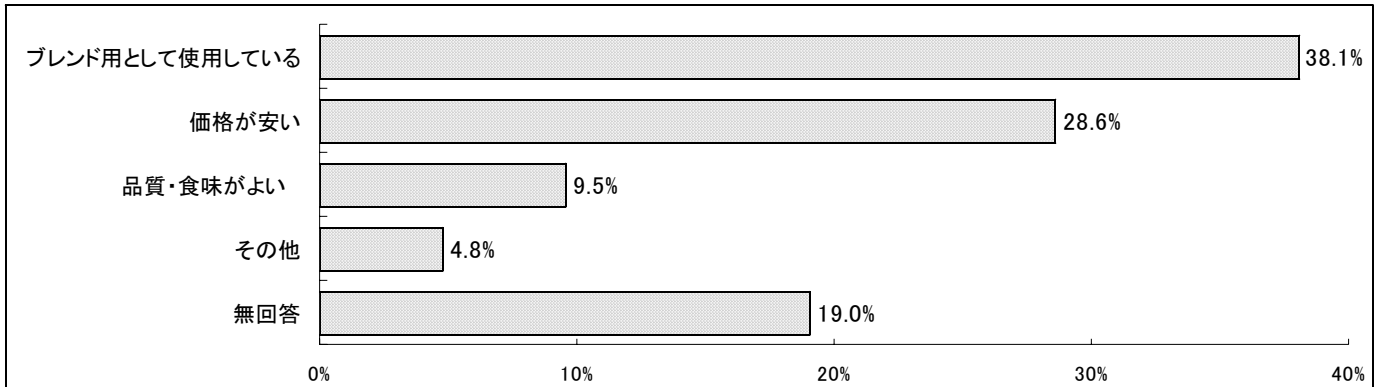
## 13 政府備蓄米の仕入状況（単数回答）

平成18年度の政府備蓄米の仕入状況については、「仕入れた」業者は7.1%で、「仕入れなかった」業者が74.2%、「政府備蓄米が入っているかわからない」が18.0%となっています。



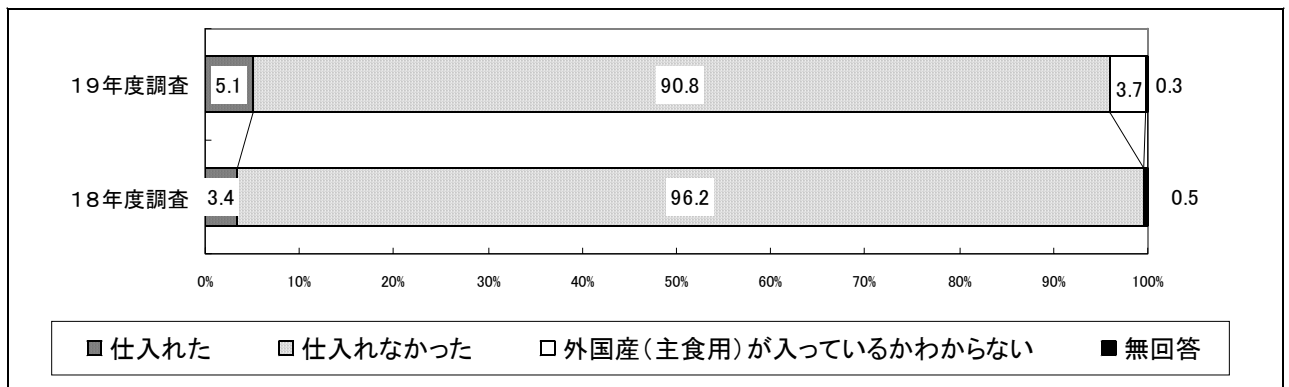
#### 14 13の政府備蓄米の仕入理由（単数回答）

政府備蓄米を仕入れた理由として、「ブレンド用として使用している」が38.1%と最も多く、次いで「価格が安い」が28.6%となっています。



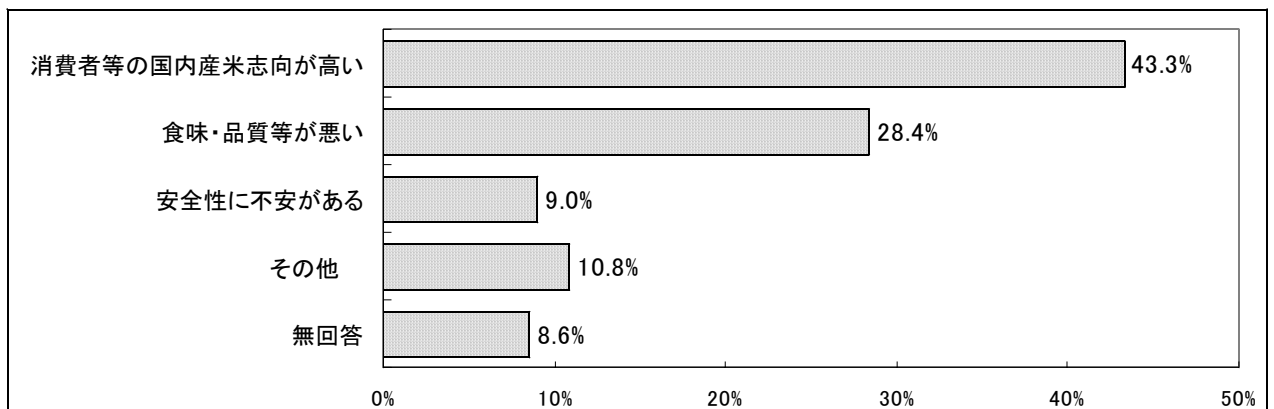
#### 15 外国産米（主食用）仕入の状況（単数回答）

平成18年度の外国産米（主食用）の仕入状況については、「仕入れなかった」が90.8%で、「仕入れた」が5.1%、「外国産（主食用）が入っているかわからない」が3.7%となっています。



#### 16 15の外国産米（主食用）を仕入れなかった理由（単数回答）

外国産米（主食用）を仕入れなかった理由としては、「消費者等の国内産米志向が高い」が43.3%、「食味・品質等が悪い」が28.4%となっています。



## 17 炊飯事業を営んでいる業者の出荷先別・種類別の製品数量及び原料米の数量 (平成18年4月～19年3月までの期間)

回答のあった102業者の最小値及び最大値、平均数量は次のとおりとなっています。

(単位:製品トン)

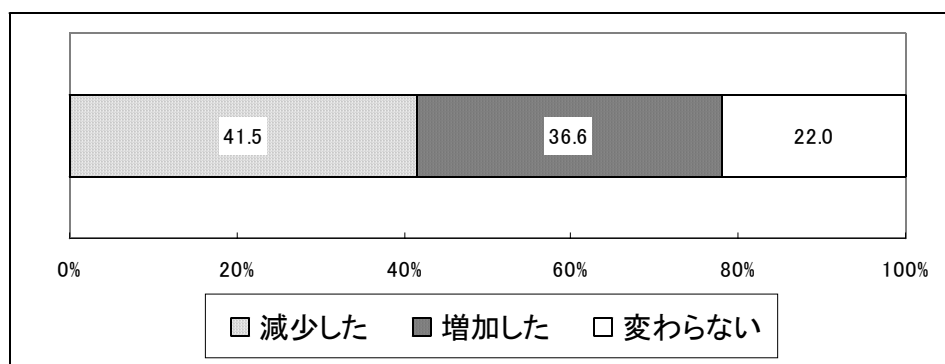
種類 出荷先	白飯		酢飯		混ぜ飯	
	最小～最大	平均数量	最小～最大	平均数量	最小～最大	平均数量
飲食店・旅館等	2～1,219	182	1～1,500	219	1～500	64
学校給食	4～1,200	225	1～170	70	2～278	58
食料品販売店	2～15,000	1,011	43～5,300	1,157	1～6,100	474
自社販売	3～7,800	509	1～2,880	347	1～900	90
その他	14～110	62	49～1,000	482	33～33	33

- ① 「飲食店・旅館等」とは、食堂、レストラン、ホテル、社員食堂、社員寮等をいいます。
- ② 「食料品販売店」とは、百貨店、スーパー、コンビニ、弁当、おにぎり販売店等をいいます。
- ③ 「自社販売」とは、惣菜、弁当、おにぎり等の製品を自社で販売する場合をいいます。

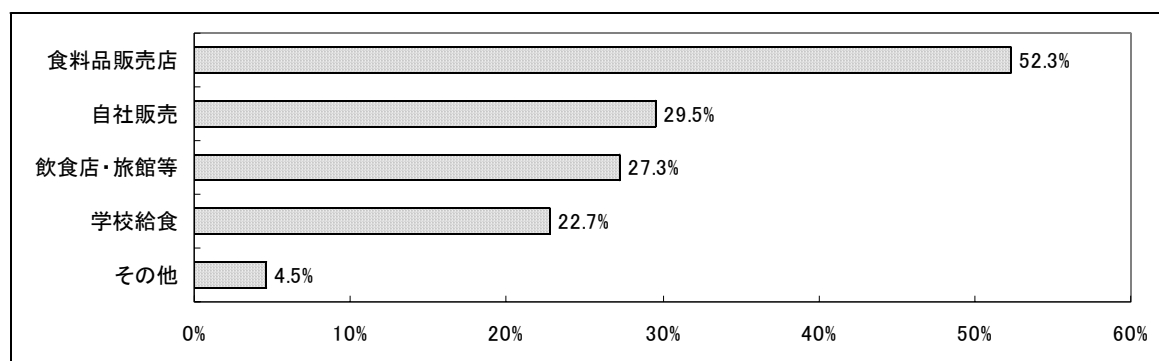
## 18 出荷数量の状況

平成18年度の炊飯事業者の出荷状況について、昨年度と比較すると、出荷数量全体としての変化は次のとおりです。

「減少した」が約42%、「増加した」が約37%、「変わらない」22%となっており、業者間の違いが見られます。



前年度と比べて、出荷数量が増加した出荷先別の内訳は、コンビニ等のような弁当やおにぎりといった持ち帰り消費する「食料品販売店」が52.3%と最も多く、次いで、お惣菜店等の「自社販売」が29.5%となっています。



また出荷数量が減少した出荷先別の内訳は、「食料品販売店」が40.0%と最も多く、次いで「飲食店・旅館等」が32.0%となっています。

